

片柳地域日本共産党
後援会ニュース

No.259
2023年8月
発行責任者
高橋隆亮
【部内資料】

埼玉県知事選
オール与党化の流れと対決
柴岡ゆうま候補健闘
公約実現に全力をつくします



6日投開票の埼玉県知事選挙で、日本共産党の柴岡ゆうま候補は健闘しましたが及びませんでした。みなさんのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

日本共産党は、4年前、当時の安倍政権が立憲主義を破壊し、県議会では自民党県議団が横暴を重ねるも、「自民党県政の復活は許さない」「民主的な県政を」との立場から大野元裕氏を自主支援しました。しかし、大野知事が自民党や公明党、維

新の会の支援をうけ、政策的にも自民党と一体となる変化を遂げたことをふまえ、急遽、日本共産党として柴岡ゆうま候補者を擁立してたたかいました。

告示目前の表明となりましたが、「自民・公明相乗りの冷たい県政

候補者	所属	得票数	得票率
大野もとひろ	無所属	1,138,973	80.2%
柴岡ゆうま	日本共産党	183,692	12.9%
大沢敏雄	無所属	97,252	6.8%

から、県民の願いに心寄せた県政へ転換を」「生きることを励ます政治を」との訴えは、県民のみなさんに共感を広げました。とくに生活の厳しさを訴える人たちに追い打ちをかける国保税の引き上げや水道料引き上げの動きをストップさせ、子ども医療費助成制度の拡充や学校給食費の無償化をめざすなどの政策はたしかに共感を広げました。

あわせて、岸田政権と自民・公明・維新・国民がすすめる大軍拡やマイナカードの強制と保険証の廃止などの暴走に、「埼玉から厳しい審判を下そう」との訴えも、党派をこえて共感が広がりました。選挙戦のなかで、メディアのアンケートに大野知事が「憲法9条の改正に賛成」「原発再稼働に賛成」と答えたことも、県民のみなさんに大きな衝撃を広げました。

県民のみなさんが望む「県民が主人公」の県政を考えたとき、日本共産党としてこの選挙戦に候補者を擁立してたたかいたことの判断は正しかったと確信しています。

柴岡ゆうまと日本共産党は、掲げた政策の実現めざし、県民のみなさんと力をあわせて、「何よりも命・くらしを再優先する県政」めざして奮闘する決意です。

9月議会は決算議会。2022年度、市民が収めた税金を市がどう使ったかをチェックする議会。物価高騰で暮らしも営業も追い詰められる中でそれを支える市政となっていたかどうかを問う議会でもあります。

本会議代表（一般）質問に立つのは私と南区の金子議員。来年度全校で運用開始のため1月からテスト運用が始まっているスクールダッシュボードの問題点、市役所移転を決めた本市ですが市民に直結する10ある区役所の機能は強化されているのか、原水爆禁止世界大会で核廃



市議会議員
とばめぐみ

俳句

戦火想えば

片柳 萩澤 克子

地下壕に子守歌あり春の木よ
塹壕はまだ人間の音に満つ
走り根の絡む石仏霧生あり

9月議会が始ります

「広島・長崎の火」を囲むつどい

◇9月3日(日)
13:00~16:00
◇染谷・常泉寺本堂
《語り継ぐつどい》
田中熙巳さん
(日本原水爆被害者団体協議会代表委員)

絶に向けて日本政府の姿勢を厳しく質した広島長崎の平和宣言を本市はどう応援するのか、来年度施行予定の「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」や「建設業界の時間外労働の上限規制(週休2日制)」、そのほか七里駅北側の桜、宮ヶ谷塔の「と畜場」「道の駅」の問題、法改正後激増した無料低額宿泊所、遅すぎる介護認定等についてたたいま質問のために念入りに準備中です。日程が決まったらお知らせします。是非傍聴にお出かけください。

平和への思い決意新たに

「原爆と人間展」に参加して

やまばと保育園有志の感想

・8月3日(木) ロコ企画・語り「夏の雲は忘れない／父への手紙」を見て

初めてロコ企画の語りを聴きました。すべての言葉に想いが込められていて、戦争体験者ではないけれど当時の様子や情景・感情が思い浮かび、涙が溢れそうになりました。特に、最後の父への手紙を聞いた時は自然に涙が流れるほど心が痛く、戦争の酷さを改めて感じました。

・展示を見て

とができました。戦争のない世界を強く願います。

今年も9月4日午後2時から常泉寺本堂で実施されます。参加費は700円です。歴史の真実を学んでみましょう。

毎年変わる絵や展示パネル、今年もG7広島サミットについても触れていました。戦争、核攻撃という過去の悲劇を繰り返してはいけないという思いと現在の世界の情勢を知り、戦後守られてきた平和で戦争のない国日本でなくなる方向に向かっていく危機感を感じられた。後世に語り継ぐことの大事な場をやまばと分会としても運営に関わっていくことを続けていきたいと改めて誓い会いました。

染谷・常泉寺で「平和の波」の鐘つき

8月6日ヒロシマデーに「平和の波」行動を染谷の常泉寺さんのご厚意で鐘つきとして行いました。「平和の波」行動は2日から9日ナガサキデーの間に世界中で核兵器廃絶の様々な行動を草の根でするものとして「常泉寺に『広島と長崎の火』を永遠に灯す会」とさいたま市原水協の共催で被爆者の方の「生きる」という願いと「平和」の願いを込めて鐘の音が千羽鶴となって羽ばたいて遠くまで広がるようにと、それぞれの方の思いと核兵器廃絶の願いを込めてつきました。(片柳東後援会 青柳洋子)



101年を迎える関東大震災

先日の赤旗新聞に「隠蔽された朝鮮人虐殺展」と題された記事が掲載されました。一昨年発見された「関東大震災絵巻」が新宿区の高麗博物館で初公開されているという記事です。手に手に棍棒や刀を持った人達、血を流して倒れる犠牲者達が描かれています。この絵巻は101年前1923年9月1日に起こった関東大震災での出来事が描かれたものです。加害者はほとんどが流言に惑わされた一般市民です。被害者は当時の日本に働きに来ていた朝鮮半島出身者・中国の人達・社会主義者などです。この絵巻に描かれているようなことは神奈川・千葉・群馬そして埼玉の各地で起こっていました。私たちが今暮している片柳地域でも起こったことなのです。染谷にある常泉寺には「朝鮮人姜大興(カンデフン)の墓」として一基のお墓があります。東京の惨状から逃げてきたであろう姜大興さんという青年が、今の片柳コミュニティセンターの辺りで地域の自警団の人達によって滅多刺しにされ亡くなりました。地域の人達によってお墓が建てられはしましたが、失われた命は戻りません。この悲劇を101年前の過去の事として葬ってしまうことはできません。数年前の熊本地震の時にも、悲劇のもととなった「朝鮮人が井戸に毒を投げ込んだ」という流言がSNS上に流されていました。埼玉での悲劇の大本は官公署からの通達であったことがはっきりとしています。日本政府はこの悲劇に対する謝罪はしていません。こうした態度こそがヘイトスピーチなどの差別を助長する大本になっているのではないのでしょうか。



姜大興さんのお墓

毎年姜大興さんの御命日には常泉寺を会場として「追悼会」が開かれています。今年も9月4日午後2時から常泉寺本堂で実施されます。参加費は700円です。歴史の真実を学んでみましょう。

民主主義否定の馬場発言は許せない

日本維新の会の馬場伸幸代表がインターネット番組で「共産党は日本からなくなったらいい政党」と発言し、批判を浴びています。他の党の政治的立場や政策を批判する権利があるのは当然ですが、政党の存在そのものを否定した馬場氏の発言は、そのような政党間の論争とは全く次元の異なる民主主義の大原則を否定する暴論です。日本共産党に対する攻撃にとどまらず、日本の民主主義の根幹を揺るがす大問題として、批判の声が広がっています。

「馬場氏の発言は他党、ひいてはそれを支持する有権者をも否定するものだ」(25日付「朝日」での法政大学大学院の白鳥浩教授のコメント)、「民主主義をどう思っているのか」(25日の文化放送「大竹まこと ゴールデンラジオ!」での大竹氏の発言)、「民主主義そのものを否定する危うさに黙っていないはならない」(立憲民主党の原口一博元総務相のツイッタート投稿)、「かつてファシス

トは、反対する勢力を攻撃・排除し、侵略戦争に突き進みました。今回の発言は、民主主義を壊し、戦争につながる道です」(28日「赤旗」での「総がかり行動実行委員会」高田健共同代表のコメント) 日本共産党の小池晃書記局長は、フランスの哲学者が述べた「私はあなたの意見には反対だ。だがあなたがそれを主張する権利は命がけで守る」という言葉を引きながら、「それが民主主義の大原則だ」と強調し、発言撤回を強く求めました。